

「すべては未来のために」

VOL.9
2026.2

山口県議会議員 県政レポート

もりしげ 哲也

発行元:山口県議会議員もりしげ哲也事務所 〒744-0015 山口県下松市大手町3丁目5-9
TEL 0833-45-0055 FAX 0833-44-5558



「土木建築委員会 委員長」及び「脱炭素社会における産業競争力強化特別委員会 委員長」に就任致しました。

土木建築委員会の様子



日頃より県政ならびに私の議員活動に温かいご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。先の知事選挙では、村岡副知事が4選を果たされ、引き続き安定した県政運営のもと、本県のさらなる発展に向けた取組が進められていくものと期待しております。

私自身、昨年は土木建築委員長、また脱炭素社会における産業競争力強化特別委員長を拝命し、現場の声を大切にしながら県政課題に取り組んでまいりました。

森繁 哲也

一般質問

質問項目

令和7年11月定例会にて一般質問をしました。

1. 障害者の社会参加の促進について
2. 企業誘致の推進について
3. 若者にとって働きやすい雇用の場の創出について
4. 魅力ある公立高校づくりについて
5. 刑法犯少年の増加への対策について



一般質問動画



*詳しい質問内容・答弁についてはもりしげ哲也ホームページおよび山口県議会ホームページよりご覧ください。

一部抜粋してご紹介します。

2. 企業誘致の推進について

質 国の政策動向、世界的な産業再編の潮流、企業側の設備投資ニーズの高まりを的確に捉え、知事には、これまでの成果と本県独自の強みを最大限に生かしながら、本県経済をさらに一段高いステージへ導いてもらいたい。

そこで、現下の国の政策動向、世界的な産業構造の変化や企業ニーズの高まりをどう認識されているのか。さらに、これらを踏まえ、今後、本県の企業誘致をどのような戦略と覚悟をもって推進されるのか、力強い所見を伺う。

答 知事 村岡 副政 現在、DXの進展や生成AIの急速な進化による半導体市場の急拡大や、世界規模でのサプライチェーンの強靱化、また、エネルギー転換をはじめとする脱炭素化の進展など、世界的に産業構造の変化が進んでいます。

本県においては、近年、日立ハイテクやマツダの新工場建設等の大型投資が行われるなど、デジタル化や脱炭素化等の流れを背景に、企業の設備投資は、今後も堅調に推移すると見込まれています。

企業誘致については、成長が期待される半導体やGX、航空・宇宙など、「やまぐち産業イノベーション戦略」に掲げる重点成長分野を中心に、優れた立地環境や優遇制度に加え、半導体分野では台湾経済団体との協力関係を活用するなど、誘致活動を戦略的に進めてまいります。

私は、国の動きやDX・GX等の変革の波を好機と捉え、県経済を牽引する優良企業の誘致に向け、自ら先頭に立って戦略的な誘致活動を展開し、本県の強みである産業力をさらに高め、足腰の強靱な「力強い山口県」を創り上げてまいります。

4. 魅力ある公立高校づくりについて

質 今後の高校再編計画においては、「学校の数」だけでなく「教育の質」「学びの環境」「地域とのつながり」を重視したビジョンが欠かせない。少子化の中でも、子どもたちが地元で学びたいと思える環境を整えることが、ひいては地域の将来を支える人材育成にもつながる。そこで、3点伺う。

- ①「魅力ある学校づくり」
- ②「県立高校の特色化、地域の生徒に選ばれる学校づくり」
- ③「生徒の学びを支える環境改善等について」

答 教育長 繁吉 健志 ①県教委では、第3期県立高校将来構想において、めざすべき県立高校像を「主体的に未来を切り拓いていく人材や、地域・社会に貢献しようとする人材を育成するとともに、人とのつながりや支え合いを大切にすることを育むことができる学校」とし、この方向性に沿って、魅力ある高校づくりに取り組むこととしているところです。

②県教委が高校ごとに策定した「スクール・ミッション」に基づき、本県の強みであるコミュニティ・スクールの連携・協働体制と、ICT環境を積極的に活用しながら、大学等と連携・協働した探究的な学びや、地域課題等の解決に向けた実践的な学びなどを充実させることで特色化を図り、子どもたちが入学したい、学びたいと思える学校づくりを推進することとしています。

③県教委といたしましては、こうした学校づくりの方向性の下、後期実施計画の素案についての地域説明会や、パブリック・コメントで御意見をお聞きした上で、計画の策定に取り組み、本県の未来を拓く子どもたちを育成できるよう、生徒にとって魅力のある学校づくりを推進してまいります。

経 歴

- 昭和54年10月2日 下松市高砂町生まれ
- 平成7年 下松中学校卒業
- 平成10年 下松高等学校卒業
- 平成15年 中央大学法学部法律学科 卒業
- 平成18年(株)ホーユー介護サービス 入社
- 平成22年 下松市議会議員選挙 初当選
- 平成26年 下松市議会議員 2期目
- 平成27年(有)フォーチュンマネージメント 代表取締役 就任
- 平成30年 山口県議会議員選挙 初当選
- 平成31年 山口県議会議員 2期目
- 令和5年 山口県議会議員 3期目
- 令和7年 土木建築委員会委員長
- 令和7年 脱炭素社会における産業競争力強化特別委員会委員長

主な役職

- 社会医療法人同仁会 理事
- NPOくだまつ絆星スポーツクラブ 事務局長
- 下松市サッカー協会 顧問
- 下松市柔道協会 理事
- 下松飲食業協同組合 顧問
- 自民党山口県連 青年局 局長(R5~)

プロフィール

山口県議会議員

もりしげ 哲也事務所

〒744-0015
山口県下松市大手町3丁目5-9
TEL 0833-45-0055 FAX 0833-44-5558

地域の守り手と創る強靱な県土

D X推進で担い手確保と生産性向上

昨年5月に就任した山口県議会土木建築委員会の森繁哲也委員長。村岡県政が掲げる「安心で希望と活力に満ちた山口県」の実現へ、議会はどの役割を果たすのか。激甚化する災害への「防災・減災」、建設D X推進による「担い手確保」、次世代へつなぐ「未来への投資」。地域の守り手である建設業界と共に、強靱な県土を創り上げるためのビジョンと、委員会の運営方針を語ってもらった。

1. 土木建築委員会として県の事業をどう後押ししていくか

村岡知事が掲げる「安心で希望と活力に満ちた山口県」の実現に向け、県執行部の事業をチェックし、また後押ししていく。土木建築委員会の役割が重要だ。県民の期待に応える県土づくりに向けた、今後の委員会運営の方針について、委員長のお考えをお聞かせください。

村岡知事が掲げる「安心で希望と活力に満ちた山口県」の実現に向け、県執行部の事業をチェックし、また後押ししていく。土木建築委員会の役割が重要だ。県民の期待に応える県土づくりに向けた、今後の委員会運営の方針について、委員長のお考えをお聞かせください。

2. 激甚化する災害から県民の命をどう守るか

近年の自然災害の激甚化・頻発化を受け、防災・減災、国土強靱化は県政の最重要課題の一つです。特に、流域治水対策や重要インフラの機能確保など、県が取り組むべき喫緊の課題について、委員長はどのようにお考えですか。今後の対策を加速させる上で、委員会として果たすべき役割についてもお聞かせください。

3. 建設産業の担い手確保の鍵となるD X推進について

建設業界では、将来の担い手確保と働き方改革が大きな課題となっており、県が推進する建設現場のD Xやi-constructionの導入は、生産性向上にとどまらず、業界の魅力向上を高め、若い世代や新たな人材を引き込むための重要な取り組みだと強く認識しています。

4. 既存インフラの維持管理、喫緊の課題について

高度経済成長期に整備された橋梁やトンネルは、一斉に老朽化が進行しており、計画的な維持管理・更新が不可欠です。まず、委員長が最も重要だとお考えになる喫緊の課題は何でしょうか。その上で、解決するため、23年に山口県建設D X推進計画を策定し、セミナー等によるICT活用工事の普及促進など建設産業の生産性向上や、イベント等による魅力発信や人材育成等に取り組んでいきます。

5. 人口減少社会を見据え、未来へどう投資するか

人口減少社会において、地域の活力を維持・向上させていくためには、産業や観光を支え、県民の暮らしを豊かにする社会資本整備が求められます。人口減少という現実を見据え、山口県の未来のために、どのような分野に重点的に投資していくべきか、委員長のビジョンをお聞かせください。



山口県議会土木建築委員会委員長 森繁哲也氏に聞く

県議会においても、この深刻な状況の克服に向けて、若者や女性に選ばれ、若者や女性が活躍しやすい地域社会づくりを進めるため、昨年新たに「若者・女性に選ばれやすい地域社会づくり特別委員会」を設置し、デジタルの力も活用した、魅力ある地域社会の構築や、地域の産業の高付加価値化を推進し、それを担う人材が県内外から集まる好循環を生み出すための方策について調査研究に精力的に取り組んでいるところです。

また、インフラ整備の分野においても、防災・減災、国土強靱化の取り組みの推進により、県民が安心して暮らせる災害に強い県土づくりを進めることはもとより、企業の国際競争力強化に資する徳山下松港などの港湾の機能強化、迅速かつ円滑な物流を支える山陰道や下関北九州道路などの幹線道路網の整備促進、産業の血液「工業用水の安定供給体制の強化など、県内企業の競争力向上につながる取り組みに投資していくことが、人口減少の中にあっても、本県の活力を維持・向上させていく上で重要と考えます。

県議会としても、執行部と一体となって、これから港湾や幹線道路網等の整備促進に必要な財源の確保などについて、国に強く訴えかけていくことであり、当委員会としても、本県の未来のためにも必要となる、社会資本整備の推進を通じて「安心で希望と活力に満ちた山口県」の実現を、しっかりと後押ししてまいります。

＝森繁委員長の横顔＝
議員を志す上での指針は、「信なくば立たず」。有権者との信頼関係を最も重視する姿勢が政治活動の根底にある。「表と裏がない」と評される正直すぎる人柄は、政治家向きではないと自認しながらも、その実直さは氏の最大の魅力だ。多忙な中、地元・下松の笠戸島から眺める海がお気に入り。静養をかねて訪れるは英気を養う。子供の頃は水泳や剣道など毎日をアクティブに過ごし、その熱心さが現在の原動力となっている。

1979年10月2日 下松市高砂町生まれ。中央大学法学部法律学科卒業。下松市議会議員を経て、2018年山口県議会議員選挙初当選。現在3期目。25年5月土木建築委員会委員長、同年7月脱炭素社会における産業競争力強化特別委員会委員長に就任。

本県の建設産業は、就業者数の減少や高齢化が進行しており、担い手不足が大きな課題となっています。建設産業は地域のインフラ整備の担い手であると同時に、災害時の最前線での応急復旧など県民の安心・安全の確保を担う「地域の守り手」であり、生産性の向上や新規就業者の確保が必要不可欠です。

こうした中、県では、担い手不足や自然災害の激甚化・頻発化、インフラの老朽化などの課題を解決するため、23年に山口県建設D X推進計画を策定し、セミナー等によるICT活用工事の普及促進など建設産業の生産性向上や、イベント等による魅力発信や人材育成等に取り組んでいきます。

昨年1月、埼玉県八潮市で下水道管の老朽化に起因した大規模な道路陥没が発生しましたが、こうした事例は、高度経済成長期以降に集中的に築き上げてきた我が国のインフラの予防保全や維持管理の重要性を浮き彫りにしています。

これまで、県では、道路施設や河川管理施設などに長寿命計画を策定し、費用の縮減・平準化を図りつつ、インフラの長寿命化を推進してきましたが、近年では「山口県建設D X推進計画」に基づき、AIやドローンによる施設の点検・診断の推進や、点検結果や補修履歴等のデータを一元管理するシステムの構築など、インフラメンテナンスの高度化・効率化にも積極的に取り組んでおり、さらにはそのノウハウを市町に提供するなど支援も行っています。

私は、こうした取り組みはもとより、今後ますます技術者の減少も懸念

3つの維新を「安心・安全」「デジタル」「グリーン」「ヒューマン」の4つの視点を踏まえ、さらに進

昨年5月に就任した山口県議会土木建築委員会の森繁哲也委員長。村岡県政が掲げる「安心で希望と活力に満ちた山口県」の実現へ、議会はどの役割を果たすのか。激甚化する災害への「防災・減災」、建設D X推進による「担い手確保」、次世代へつなぐ「未来への投資」。地域の守り手である建設業界と共に、強靱な県土を創り上げるためのビジョンと、委員会の運営方針を語ってもらった。

私には、こうした建設現場のD Xの推進やi-constructionの導入は、生産性向上にとどまらず、業界の魅力向上を高め、若い世代や新たな人材を引き込むための重要な取り組みだと強く認識しています。

昨年6月、中高生等を対象に開催された「やまぐち建設産業魅力発見フェア」の視察にうかがいましたが、建設業界の各団体の皆さんの協力のもとに設けられた様々な体験ブース・企業ブースで目を輝かせている中高生の姿が印象的でした。

本県の基幹産業であり、地域の守り手である建設産業が、将来にわたって、その社会的役割を担っていきけるよう、担い手確保等に向けた建設現場の様々な声をカタチにするべく、当委員会として

現在、道路維持管理について、県東部の周南地域、若者や女性が活躍しやすい地域社会づくりを進めるため、昨年新たに「若者・女性に選ばれやすい地域社会づくり特別委員会」を設置し、デジタルの力も活用した、魅力ある地域社会の構築や、地域の産業の高付加価値化を推進し、それを担う人材が県内外から集まる好循環を生み出すための方策について調査研究に精力的に取り組んでいるところです。

また、インフラ整備の分野においても、防災・減災、国土強靱化の取り組みの推進により、県民が安心して暮らせる災害に強い県土づくりを進めることはもとより、企業の国際競争力強化に資する徳山下松港などの港湾の機能強化、迅速かつ円滑な物流を支える山陰道や下関北九州道路などの幹線道路網の整備促進、産業の血液「工業用水の安定供給体制の強化など、県内企業の競争力向上につながる取り組みに投資していくことが、人口減少の中にあっても、本県の活力を維持・向上させていく上で重要と考えます。

県議会としても、執行部と一体となって、これから港湾や幹線道路網等の整備促進に必要な財源の確保などについて、国に強く訴えかけていくことであり、当委員会としても、本県の未来のためにも必要となる、社会資本整備の推進を通じて「安心で希望と活力に満ちた山口県」の実現を、しっかりと後押ししてまいります。

＝森繁委員長の横顔＝
議員を志す上での指針は、「信なくば立たず」。有権者との信頼関係を最も重視する姿勢が政治活動の根底にある。「表と裏がない」と評される正直すぎる人柄は、政治家向きではないと自認しながらも、その実直さは氏の最大の魅力だ。多忙な中、地元・下松の笠戸島から眺める海がお気に入り。静養をかねて訪れるは英気を養う。子供の頃は水泳や剣道など毎日をアクティブに過ごし、その熱心さが現在の原動力となっている。

1979年10月2日 下松市高砂町生まれ。中央大学法学部法律学科卒業。下松市議会議員を経て、2018年山口県議会議員選挙初当選。現在3期目。25年5月土木建築委員会委員長、同年7月脱炭素社会における産業競争力強化特別委員会委員長に就任。

中建日報の2026年1月5日付より転載。誌面レイアウトの都合により、改行・写真等の表記を一部変更